

丹波篠山市サクラビジョン(案)

令和6年9月27日時点

掲 載 項 目

1 丹波篠山のサクラ

(1)市内のサクラの状況

- ・歴史
- ・種類と系統
- ・名所
- ・ふるさと桜つつみ回廊
- ・市木「サクラ」を未来へつなぐクラウドファンディング

(2)市内のサクラの課題

- ・密植
- ・大木化・老化・倒木
- ・病気(てんぐ巣病など)、害虫、着生植物(コケ・ツタなど)
- ・管理者不明
- ・地域コミュニティ力の低下
- ・手入れできる人材の不足
- ・財源不足

(3)市内でのサクラを保全する活動

- ① サクラの管理団体「ささやま桜協会」による活動
- ② 地域住民による活動
- ③ 桜守による活動
- ④ 丹波篠山市商工会青年部による活動

2 基本構想

- (1)基本理念
- (2)目指す将来像
- (3)ビジョンの推進方針、期間

3 戦略(将来像実現に向けた取組)

4 重点地区・モデル地区の選定

1 丹波篠山のサクラ

(1)市内のサクラの状況

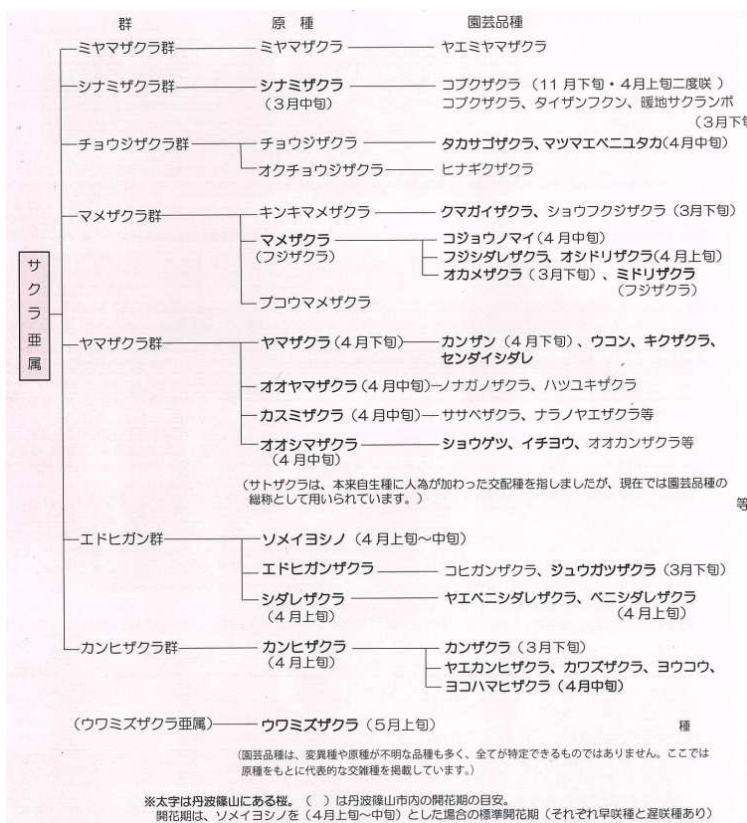
丹波篠山市が令和5年に自治会等を対象にした調査では、市内には約1万本のサクラがあることがわかりました。市内のサクラの状況は次のとおりです。

・歴史

サクラは、日本には、江戸時代までに栽培品種を含め300種を超える種類が存在していたといわれ、現在では600種を超えていると言われていています。日本を含めた北半球の温帯地域に広く見られ、わが国では特に平安時代から好まれていました。盛んに品種改良が行われ、花見や入学・卒業シーズンの花木として親しまれてきました。近年では、世界でも「sakura」と呼ばれるようになり、日本を象徴する花となっています。

・種類と系統

サクラの種類は、大きく分けて7つに大別され、市内でもたくさんの種類のサクラを見ることができます。



・名所

サクラは丹波篠山市の【市木】であり、地域で大切に守られています。市内にはサクラの名所といえる多くのスポットがあります。



・ふるさと桜づつみ回廊

川を身近な自然として愛し、安全で美しい県土を創出するとともに、地域交流を深めてもらいたいという願いを込めて、兵庫県が平成3年度から平成12年度にかけて、瀬戸内海から日本海を結ぶ延長約170kmの河川沿い(武庫川～篠山川～加古川上流～円山川)を約5万本の桜でつなぐ「ふるさと桜づつみ回廊」を整備しました。

市内でもこの事業により、篠山川、武庫川、大山川などに多くのサクラ(主にソメイヨシノ)が地域住民により植樹されています。

この兵庫県の「ふるさと桜づつみ回廊」事業は、旧丹南町で広く実施されていた町木「サクラ」の植樹活動が発端となって実施されました。

・市木「サクラ」を未来へつなぐクラウドファンディング

丹波篠山市では、「丹波篠山の桜を守り、育むプロジェクト」として、ガバメントクラウドファンディングにより、市木サクラの保全や人材育成等のための寄附を令和5年度から募っています。過去2年間、目標とする200万円を大きく超える寄附が全国各地から寄せられ、「サクラを未来へつなぐ」という市民の思いに、たくさんの方に共感いただいています。

寄附金は、篠山城跡など市内のサクラのシンボリックな場所の整備に利用され、より魅力的になったサクラが多くの人々の心に響き、さらなる賛同者を呼ぶ、サクラを未来につなぐための持続的な財源となることが期待されています。

(2) 市内のサクラの課題

春が来ればサクラは自然に咲くもの、と思いがちですが、サクラが元気に咲き続けるには、一定のクリアしないといけない課題があります。

丹波篠山市におけるサクラに関する課題は、次のとおり挙げることができます。

・密植

住民の手によって河川敷等に植えられたサクラの種類は、多くがソメイヨシノという現状ですが、ソメイヨシノは年数とともに、かなりの大木に成長し、枝も横に広がります。ソメイヨシノの自然な成長には、一般的に10m程度の間隔で植樹することが良いとされていますが、5m間隔程度で植えられている所もあり、木の生育につれてお互いが日照等に対して障害となり、生育が妨げられている木が多くみられます。

若木を植える場合でも、将来大木になった姿を想定して植えることが必要です。また、すでに狭い間隔で植えられている場所については、木同士の間隔を広げるために、伐採(間引き)することも検討が必要です。

・大木化・老化・倒木

密植とも関わりますが、成長が進んだサクラの木は、品種によってはかなりの大木になります。ソメイヨシノなど一部の品種のサクラは、人の手による手入れが必要ですが、大きく、高く成長した木の上部には梯子をかけても届かず、作業をするには高所作業車が必要になるなど、慣れていない人には困難な作業となってしまいます。そうならないためにも、これからサクラを植える際には、高木にならない品種を選ぶことも大切なポイントです。

また、植えてから数十年が経った木は老化しています。人の手によって適切な手入れがされている木であれば、年数に関わらず元気に花を咲かせてくれますが、手入れがなされていない木については、だんだん弱ってきています。弱った木が倒れるおそれもあるので、個体の程度によっては更新(植え替え)する必要があります。

・病気(てんぐ巢病など)、害虫、着生植物(コケ・ツタなど)

サクラの共通的な欠点として、大気汚染などの環境悪化に弱いことや、病虫害の被害を受けやすいことなどがあります。ソメイヨシノなどは特に免疫力が弱く、てんぐ巢病やきのこの寄生などの菌の繁殖によって病気にかかりやすい傾向があります。

陽当たりが悪く、湿気が多いところなどでは、コケ(地衣類など)が表皮についている木が見られます。少しであれば問題ありませんが、びっしりとはびこった木はやがて呼吸ができなくなり、樹勢に影響が現れます。また、木の周りの雑草などが除去されていない場所では、ツタやクズが絡まり、見た目も悪く、成長とともに締め付けられて、弱る原因にもなります。

また、近年、サクラなどのバラ科樹木に寄生し、幼虫が樹の内部を食べて枯らしてしまう特定外来生物クビアカツヤカミキリが近隣自治体にまで生息域を拡大しており、早期

発見と早期防除の体制整備が必要です。

・管理者不明

私有地に植えられている木については、はっきりとした所有者、管理者がいますが、道路敷や河川敷など公的な場所では、植えられてから年数が経っているサクラの中には管理者が不明確になってきているものがあります。手入れが必要な木については、管理者が注意して見守ることが必要です。

・地域コミュニティ力の低下

人口減少や高齢化、核家族化や個人の価値観の多様化などにより、全国的に地域を支える人材不足や住民同士のつながりの希薄化が社会問題となっています。市内では、従来から各地域で比較的濃密な交流が行われてきましたが、同様の問題が徐々に顕在化してきています。

市内には、自治会などの地域で植樹され、管理されてきたサクラがたくさんあります。地域コミュニティ力の低下により、従来通りの管理が出来なくなることが危惧されています。

・手入れできる人材の不足

「桜切るバカ、梅切らぬバカ」という言葉がありますが、これは絶対にサクラの枝は切っ
てはいけない、ということではありません。適切な切り方をしないと枯れたり、弱ったりするおそれがある、という意味で言われています。サクラの枝を切る際には、後で傷が治りやすいように正しい切り方をする必要があります。一般的には、そういった知識を持つ人は少なく、正しい手入れができる人材が不足している現状で、人材育成が急務です。

・財源不足

丹波篠山市には、約1万本のサクラがあります。品種は様々で、病害虫に強い種類もあれば、病気にかかりやすい種類もあります。市内で最も多く植えられているサクラはソメイヨシノですが、ソメイヨシノは病気に弱い品種で、前述のてんぐ巣病が有名です。木の低い位置に罹患した枝があれば、正しい知識さえあれば、比較的容易に切って駆除することができますが、高い位置にあれば、高所作業車での作業が強いられるなど、経費が必要になってきます。サクラを1本1本適切に手入れしていくためには、多くの労力と経費が必要となり、その財源が課題となってきます。

(3)市内でのサクラを保全する活動

市木であるサクラは、多くの人々の保全活動により受け継がれてきました。その活動の一例を紹介します。

① サクラの管理団体「ささやま桜協会」による活動

「ささやま桜協会」は旧丹南町の町木であったサクラを守り育てるため、昭和63年に自治会や事業所、団体、個人を構成員として発足した「丹南町桜協会」を母体とし、現在の丹波篠山市の市木であるサクラの保全活動を目的とした市内唯一の団体です。主な活動は次のようなものです。

- ・桜守による桜の育成・剪定等に関するアドバイス
- ・地域で桜の維持管理ができる人材を育てる桜守養成講座
- ・地域の桜を知る桜めぐり
- ・市内全域を対象とした桜の整備

② 地域住民による活動

自治会やまちづくり協議会など、地域住民の活動により、公民館や寺社仏閣、兵庫県の「ふるさと桜つつみ回廊」事業で植樹された河川沿いなど、市民の交流や憩いの場のサクラが保全されています。

③ 桜守による活動

サクラは春が来れば自然に咲くもの、と思いがちですが、私たちが毎年サクラを楽しむことができている背景には、常にサクラに愛情を注ぎ、花の季節以外にもサクラの健康状態を見守り、手当をしている「桜守(さくらもり)」と呼ばれる人たちの活動があります。

ささやま桜協会により、毎年、剪定など、サクラの手入れや維持管理ができる桜守を養成する「桜守養成講座」が実施され、技術を習得した桜守が市内各地で活動し、サクラの保全につながっています。

④ 丹波篠山市商工会青年部による活動

市内で事業を営む経営者・後継者や従業員で満45歳以下の青年(男女)で構成される丹波篠山市商工会青年部により、篠山城跡周辺や国・県道沿いなど、主要な場所のサクラのてんぐ巣病対策や支障枝の除去、植樹などの活動が実施されています。

2 基本構想

(1) 基本理念

「市民みんなで作るオンリーワンのサクラの里」

「サクラ」は丹波篠山市の市木です。

市内には約1万本のサクラがあり、春になると地域住民や観光客のみなさんの目を楽しませています。市内のサクラの多くはソメイヨシノという品種ですが、ソメイヨシノは「てんぐ巢病」という伝染病にかかりやすく、放っておくと病気が広がり枯れてしまう可能性があります。このようにサクラの木は定期的な手入れが必要であり、以前から多くのみなさんの手で剪定や治療、防除作業などを行っていただいています。

また、ソメイヨシノ以外にも、市内に従来から自生する山桜、早咲きのオカメ桜や遅咲きのカスミ桜など、個性豊かで美しい花が咲く素晴らしいサクラがたくさんあります。これらのサクラにも目を向けてみると、丹波篠山の自然の多様性を感じることができます。

サクラは日本を代表する木であり、日本中で美しいサクラを愛でることができます。また、サクラで地域おこしをしているところは全国にたくさんありますが、丹波篠山市では子どもからお年寄りまで市民みんなが、多様なサクラを愛し、楽しみ、見守り、関わり続け、各々が丹波篠山をオンリーワンのサクラの里だと思えるように取り組んでいきます。

(2) 目指す将来像

① 適地適桜のサクラが未来に継承されるまち

⇒多様な種類のサクラが地域で継承されているまちを目指します。

サクラは60年以上、しっかりと管理すれば何百年と、人よりも長く生きる続けることができます。

市内にはたくさんのサクラがありますが、誕生や入学・卒業の記念など、その一本一本に植樹した人の思いが込められています。

しかし、サクラが生き続ける時間の中で、人の世代が変わると植樹時の思いが継承されず、サクラに目が向かなくなり、管理が行き届かなくなります。

また、サクラは多種多様であり、土壌や気候など、種ごとに生長に適した環境があります。サクラを新たに植樹する場合や更新する(植え替える)場合は、適した場所に適した種類のサクラを植樹する「適地適桜(てきちてきおう)」を意識することも重要です。

サクラを未来に継承していくためには、個人単位での管理には限界があります。地域のシンボルとして、地域みんながサクラを自分事として考えられるオンリーワンのサクラの里を目指します。

② サクラを地域の活力とし、みんなが生き生きワクワクと過ごすまち

⇒サクラが地域活性化に活かされているまちを目指します。

お花見は、日本人が昔から楽しんできた春の行事です。一緒に地域で働き、サクラのもとで宴をすることにより、深い関係性を築いてきました。

また、サクラのもとには地域住民だけではなく、都市部や最近では海外からもお花見を目的に人々が集まります。その魅力(映え)がSNSで発信されることにより、多くの人の共感を呼び、さらに人々を集める、サクラにはそのような人々をつなぐ求心力があります。

しかし、サクラの求心力が主に発揮されているのはサクラの花が咲く春の数週間です。年齢や性別、居住地関係なく、一年を通じてサクラをきっかけとして人々が交流し、みんなが生き生きワクワクと過ごすことができるオンリーワンのサクラの里を目指します。

③ サクラを見守る人材があふれ、活躍するまち

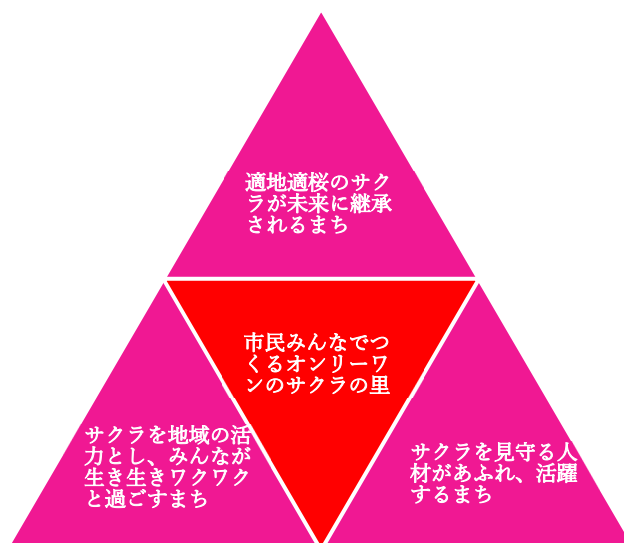
⇒サクラを気にかけて、適切に管理する人がたくさんいるまちを目指します。

サクラは桜守の活動などにより毎年美しい花を咲かせていますが、市内にたくさんあるサクラを桜守だけで管理するには限界があります。サクラを未来につなげていくためにはより多くの人々がサクラのことを気にかけて、関わっていく必要があります。

一方で、「桜切るバカ、梅切らぬバカ」という言葉があるように、サクラの剪定にはそれなりの知識と技術が必要です。

多くの人々がサクラのことを自分事として気にかけて、適切なサクラの管理手法を習得し、各々でサクラを手入れするオンリーワンのサクラの里を目指します。

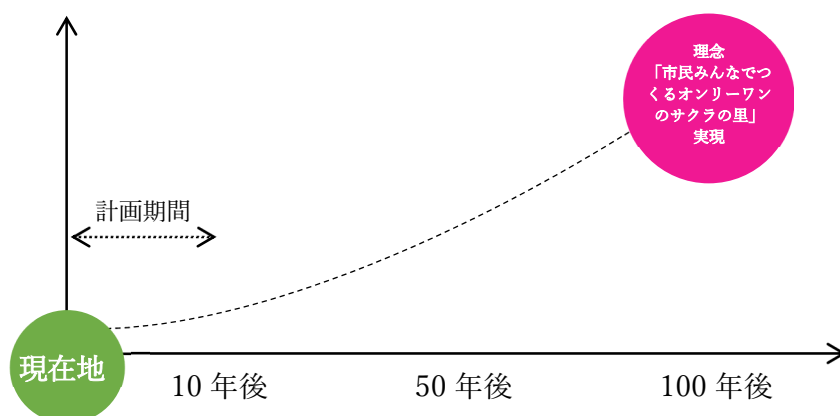
○イメージ



(3)ビジョンの推進方針、期間

サクラの生長に要する期間は数十年と長く、このビジョンで掲げる理念や将来像実現のためにも同じく長い期間を要します。そのため、このビジョンでは中長期的な視点でまちづくりを進めていくため、「理念」や「目指す将来像」を掲げつつ、その目標実現のための短期的な取組方針を次項で「戦略」として掲げます。

戦略(取組)は一定の期間で区切り、効果検証したうえで都度改定して進めていく必要があるため、令和7年度から令和16年度までの10年間を計画期間として実施していきます。



3 戦略(将来像実現に向けた取組)

目指す将来像①「適地適桜のサクラが未来に継承されるまち」

【取組方針①-1】適地適桜

- ・地域にあったサクラの植樹
- ・適切な植え方(土壌・間隔など)の実践
- ・必要に応じた更新(寿命サクラの処理、新しいサクラの植樹など)
- ・苗木の育成

| 内容(例) | 実施主体 |
|-------------------|------|
| 多様な桜の計画的な植樹 | |
| 状況に応じた伐採の必要性の理解浸透 | |
| 地域の名桜の繁殖、育成 | |

【取組方針①-2】整備促進

(目的等) 親から子、孫へ思いをつなぐ サクラへの愛着増進

- ・必要な手入れ(施肥・剪定・枯れ枝除去・病害虫対策など)の実施

| 内容(例) | 実施主体 |
|----------------------|------|
| 所有者、管理者の明確化 | |
| オーナー制度(マイ桜制度)(手入れ含む) | |
| サクラパトロール、通報システム | |

目指す将来像②「サクラを地域の活力とし、みんなが生き生きワクワクと過ごすまち」

【取組方針②-1】名所づくり

- ・名所づくり

| 内容(例) | 実施主体 |
|------------------|------|
| 地域の名桜の掘り起こし | |
| 映えスポットづくり、SNS 発信 | |
| サクラの散歩道の設定 | |

【取組方針②-2】観光利用

(目的等) サクラで地域の魅力発信

- ・名所マップづくり
- ・モデルコースの設定
- ・名所案内人の育成

| 内容(例) | 実施主体 |
|---------------------------|------|
| サクラにまつわるエピソードの発信、QRコードの設置 | |

| | |
|--------------|--|
| サクラ巡りツアー、マップ | |
| サクラガイド育成 | |
| 和船、屋形船からのお花見 | |
| 秋のさくらまつり | |

【取組方針②-3】商品化

(目的等) サクラの収益事業化 花期以外の厄介者感の払拭 木育

- ・サクラを活かした商品の開発、販売

| 内容(例) | 実施主体 |
|-------------------------------|------|
| 年中を通して楽しめる商品、食品の開発(桜もち、桜ビール等) | |
| 桜の伐採木を使った机やペン立ての作成 | |

【取組方針②-4】地域活性化

- ・地域でのお花見会の実施促進

| 内容(例) | 実施主体 |
|-----------------------|------|
| 都市住民、外国人等との交流の場、関係人口増 | |

目指す将来像③「サクラを見守る人材があふれ、活躍するまち」

【取組方針③-1】見守る人材の育成

(目的等) 活動を自発的なものに 小学校区等の単位ごとに桜守
「桜切るバカ、梅切らぬバカ」の払拭

- ・桜守、アドバイザーの養成

| 内容(例) | 実施主体 |
|--------------|------|
| 桜守養成講座の開催 | |
| サクラの手入れ方法の周知 | |

【取組方針③-2】見守る団体の支援

- ・自治会、事業所、桜協会などの団体の取組支援

| 内容(例) | 実施主体 |
|-----------------------------|------|
| 桜守による <u>技術的支援</u> | |
| 市等補助金による <u>金銭的支援</u> | |
| 木札の設置斡旋(<u>種類、所有者の明示</u>) | |
| 見守る団体の活動紹介(市広報、ホームページ、SNS) | |

【取組方針③-3】交流促進

・交流会の開催

| 内容(例) | 実施主体 |
|-----------------------------|------|
| サクラ管理団体(桜協会、自治会等)間の交流、意見交換会 | |

【取組方針③-4】学ぶ機会の提供

(目的等) 幼少期からの意識付け 自分事感の醸成

・セミナー、講演会、観察会の開催

| 内容(例) | 実施主体 |
|------------|------|
| 小中学校への派遣授業 | |

【取組方針③-5】資金集め

・クラウドファンディングの実施

| 内容(例) | 実施主体 |
|----------------|------|
| ふるさと納税制度の活用 | |
| 自治体や企業等の補助金の活用 | |
| サクラの名所の命名権の販売 | |
| 企業協賛の募集 | |

★体系図



4 重点地区・モデル地区の選定

例) 篠山城跡周辺

河川敷(篠山川畔、宮田川畔、武庫川畔…)

要検討